

広島市立図書館です。おすすめの本の紹介や図書館の利用についてお知らせする「図書館高校生通信」。今回は、中央図書館が、市立高校で行っている「出前ブックトーク」について紹介します。

これまで「出前ブックトーク」を体験された生徒さんもいらっしゃいますよね。この「図書館高校生通信」第2号では、これまで「出前ブックトーク」で紹介した本、「出前ブックトーク」を体験した生徒さんの感想などを一部紹介します。また、「出前ブックトーク」実施後のアンケートで寄せられた、生徒さんが「今まで読んでおもしろかった本、最近読んでいる本」も紹介します。

春は色々な事をスタートするのに絶好の季節です！この「図書館高校生通信」を一つのきっかけに新たな本と出会い、ぜひ「本を読む生活」をスタートさせてみてくださいね。

「出前ブックトーク」って？

「出前ブックトーク」は、平成25年度からスタートしました。「ブックトーク」とは、「1つのテーマに沿って、いろいろな本を紹介すること」です。高校生の皆さんが、将来について考える一つのきっかけとなるように、「職業」や「働くこと」「自立すること」などをテーマに、様々なジャンルの本のおすすめのポイントや内容の一部を紹介しています。

市立高校の「出前ブックトーク」実績

実施年度	実施校数	対象人数
平成25年度	2校	44人
平成26年度	2校	109人
平成27年度	2校	108人
平成28年度	4校	390人
平成29年度	6校	626人
平成30年度	4校	521人



「出前ブックトーク」の様子

「出前ブックトーク」を体験した生徒さんには、あらためて「夢」について考え、紹介した本を読んでみようと思う機会となったようです。

中央図書館自由閲覧室Bには、「高校生のための職業ハッケン!! コーナー ～きみの未来はここにある～」がありますので、ぜひこちらもご利用ください。



平成29年度プログラム



平成30年度プログラム

「出前ブックトーク」の生徒さんの感想

「ブックトーク」という言葉はこれまで全く聞いたことがなく、テーマに沿った本の紹介というのは、とても新鮮でした。

「ブックトーク」を初めて聞いたけど、とてもおもしろかった。1つの「夢」というテーマでも本によっていろんな見方があるのがびっくりした。

本をもっと読んでいこうと思った。「夢」についてしっかり自分と向き合って考えて、目標として叶えられる日がくるのが楽しみ。

「今まで読んでおもしろかった本・最近読んでいる本」(アンケートから)

皆さんから、名前が多くあがった作家は、住野よる、湊かなえ、有川浩、東野圭吾、山田悠介、宮部みゆき、伊坂幸太郎 でした。ジャンルは小説が圧倒的に多く、1冊だけではなく、5冊10冊と回答してくれる生徒さんも多くいらっしゃいました。

続いて、生徒さんの感想も添えて、教えていただいた本を4冊紹介します。

<p>『ブランコのむこうで』 星 新一 1979年 新潮社</p> 	<p>『狐笛のかなた』 上橋 菜穂子 2006年 理論社</p> 	<p>『かがみの孤城』 辻村 深月 2017年 ポプラ社</p> 	<p>『君の臍臓をたべたい』 住野 よる 2015年 双葉社</p> 
<p>ショートショートで有名な星新一さんが、ロングSFを書いたもので、とても大冒険ができる作品でした。</p>	<p>目標に向かって、けなげに努力していく姿に感動しました。</p>	<p>共感できるところがあたり、もう一度読み返したくなる本です。</p>	<p>「今ある当たり前」を大切にしようと思いました。</p>

広島市立中央図書館 (学校連携担当)

〒730-0011 広島市中区基町3番1号

【図書館HPQRコード】

TEL 082-222-5542 FAX 082-222-5545

URL <http://www.library.city.hiroshima.jp/>

開館時間：火～金…9:00～19:00

土・日・祝…9:00～17:00

